

令和5年度第4回小櫃・上総地区公民館運営審議会会議録

- 1 会議名称 令和5年度第4回小櫃・上総地区公民館運営審議会
- 2 開催日時 令和6年3月19日(火)
14時30分から16時35分
- 3 開催場所 君津市松丘コミュニティセンター 大会議室
- 4 出席委員 【小櫃地区選出】三橋委員長、丸山委員、栗原委員、荒井委員
【上総地区選出】小泉副委員長、鳥井委員、小島委員、石井委員
事務局 【小櫃公民館】石井館長、藤平副館長、會澤副主査、島津主事
【上総公民館】本橋館長、潤米松丘分館長、鈴木亀山分館長、
森本副館長、早田主査、今井公民館主事、江越主事
- 5 欠席者 なし
- 6 傍聴人 なし
- 7 会議概要 下記のとおり

- 1 開会（進行 藤平副館長）
- 2 委員長あいさつ（三橋委員長）
- 3 小櫃公民館長あいさつ（石井館長）
- 4 議事

【三橋委員長】

次第に沿って進めてまいりますので、よろしく申し上げます。本日は報告事項が2項、協議事項が1項あります。協議事項につきましては、各館で協議する予定となっております。

それではまず、報告事項その1「各館公民館事業の報告」について申し上げます。小櫃公民館、上総公民館の順で報告してください。質疑応答の時間は両館報告後に設けます。

では、小櫃公民館から申し上げます。

【藤平副館長】

*資料「令和5年度小櫃公民館事業報告」及びスライド写真をもとに説明。

【森本副館長】

*資料「令和5年度上総公民館事業報告」及びスライド写真をもとに説明。

【三橋委員長】

ありがとうございました。ただいま両館からの事業報告がありました。委員のみなさまから、ご意見やご質問はありませんか。いかがですか。

ご報告いただいた、20歳のつどいのなかで20歳の若者たちがいろいろな抱負を語ったり、メッセージを発信したりしていますが、そのなかで地域に対するものなど、公民館の方で印象に残ったものはありますか。

【森本副館長】

上総公民館では20歳の抱負も話してもらいますが、そのほか地域に対する思いも話してもらっています。抱負のなかであったのが、久留里地区は人口が減っているなかで地域が盛り上がってほしい。一方で、落ち着いたまま変わらないでいてほしいという声など地域に対する思いが様々あったようです。

印象的なものとして、自分は何年か後に、YouTubeで久留里チャンネルを立ち上げて、発信してビッグになりたいといった発言がありました。

【本橋館長】

自分が発信して久留里をもっと盛り上げたいとの声がありました。

【三橋委員長】

最近、久留里など房総半島が色々と紹介されていますね。私自身が小櫃地区の20歳のつどいに欠席してしまったので、当日の様子がわからず申し訳ないのですが、小櫃公民館ではどのような感じだったでしょうか。

【島津主事】

昨年、私自身が20歳のつどいに当事者として参加しましたが、今回の小櫃地区の20歳のつどいでは、保護者の方への感謝の気持ちを、みんなの前で堂々と話していて、素敵だなと思いました。

【本橋館長】

ちなみに、島津主事は去年、亀山地区の20歳のつどいの実行委員メンバーでした。

【三橋委員長】

出席された委員のみなさんのなかで、何か印象に残ったことなどありますか。

【石井委員】

私は亀山地区の20歳のつどいに出席しました。はじめは、6人の方々だけで、どういふふうにつどいを作り上げるのかと思っていましたが、和気あいあいと、子どもが少ないため先生たちも積極的に関わってくれたつどいでした。先生方が携わってくれたことで、印象に残るつどいだったのではないかと思います。子どもたちもいろいろ意見を述べていましたし、保護者への感謝を述べて、人数が少ないなりにいいつどいだったと思います。

【荒井委員】

私は小櫃地区のつどいに出席しました。島津さんが言ったように、自分の進路などしっかり話をしていました。すごくしっかりしている印象を受けました。

【小島委員】

個人的な感想になりますが、新年初日から震災と飛行機事故が続く重苦しいなか、良いつどいでした。人数が少ないなりに先生も関わり、6年生の担任の先生が一人ずつエピソードを語ってくれて、思い出も濃く残っていたようで、少しは明るい雰囲気になったと感じます。

【三橋委員長】

具体的な報告をいただき、ありがとうございました。

もう一つ、令和5年度で、コロナの制約から解放されて、事業も通常に近い状態で開催されるようになりました。今まではできなかったけれど、これから前を向いていこう、これからの公民館の運営に向けて参考になる声を頂いている方がいれば報告していただけると、参考になるのですが、いかがでしょうか。

【荒井委員】

半分は個人の意見になりますが、上総公民館の「“山”と“歩く”を楽しむ教室」のなかで、人間国宝の松原伸生さんの工房に行かれています、今も自由に行けるのでしょうか。

【森本副館長】

藍染め体験の予約は受け付けているそうです。

【荒井委員】

実物を見たことはないのですが、やはり素晴らしいのでしょうか。

【森本副館長】

私の印象ですが、松原さんの話を聞いて、地道な作業の繰り返しでそれを長年やり続ける精神力がすごいなと感じました。

【石井委員】

私も松原さんの工房にお邪魔させていただきました。型紙を使っているのですが、型紙を作る人は三重県の職人さんだそうで、非常に細かい模様の型紙なんですね、目を凝らして一生懸命見ましたが、重なるの継ぎ目が全く分かりませんでした。現在は松原さんに跡継ぎができたと言われ、嬉しく思っています。本当に良かったです。

【荒井委員】

松原さんは、もともと地元の方ですか。

【石井委員】

お祖父さんの代に君津に移られたとのことですか。

【本橋館長】

大変なのは表と裏の模様を合わせるころだそうですね。

【石井委員】

こういう機会がないと見学に行けないので、大変良い経験をさせてもらいました。

【三橋委員長】

小櫃で印象的なものはありますか。

【藤平副館長】

対面でできるようになったことですか。高齢者学級の開級式では、久しぶりに会えたねという声が上がっていました。

【三橋委員長】

私も関わっているのですが、小櫃公民館の子ども会等関係者会議では、コロナの間は子ども会など団体の活動を止めていたという報告がありました。この間役員に当たった方たちは、自分たちはやらなくて済んだ、という気持ちもあったようですが、い

ざアフターコロナになって、このタイミングで役員になった方は、活動のノウハウが途切れてしまって、今度は立ち上がる時に何をしたら良いかわからない、立ち上がれない状態にあるという話がありました。

【藤平副館長】

確かに、やらなくて良かった、で済んでしまう一方で、コロナ禍後に子ども会の役員になった方は、何をしたらいいかわからない。子ども会は自治会から補助金をもらっているの、責任感のある人ほど、何かしないといけないと考える。考えるけれども、誰に相談したらいいかさえわからないと悩んでいた人が、子ども会等関係者会議に参加して、涙ぐみながら相談してくれました。家族構成も変わってきているし、何もかもが以前のおりにできるわけではない。子ども会の活動が昔のようにはできないのであれば、頼れるところに頼ってみれば良いのではということ、公民館の出張映画会を活用してください、と提案させてもらいました。いくつかの子ども会から声がかかりまして、今年度は地域ミニシアターの出張回数が大幅に増えました。

【三橋委員長】

声を聴いて公民館の方で対応すること、今までできていたところが困難になったときに手を差し伸べる好例と思います。

【會澤副主査】

コロナ禍を経て社会が戻ってきて良かったという話だけでなく、コロナの爪痕もあり、例えば子どもキャンプで行っていた流しそうめんや、子育て事業での水遊びなど、コロナが5類化しても、まだまだ警戒は続いています。子育て事業で保育をつけていますし、様々な事業もできるようになりましたが、参加する側の意識として、インフルエンザなどいろいろな感染症があり、なかなか足を踏み込みづらくなっていることも事実で、かつてのように人が戻ってきているわけではありません。法律上はコロナが5類化したとは言っても、人の心までが完全にオープンになっているわけではありません。社会の揺り戻しに加え、コロナへの警戒でできてしまった心の壁もあり、一概に前の形に戻せばいいということではなく、新しい形で考えていく必要もあるかと思えます。

【三橋委員長】

ありがとうございました。事業報告をしていただいて、これから対応していかなければいけないこと、意識が変わってきていることについての気づきが共有できました。これを来年度の事業につなげていただき、両館で情報共有しながら、地域の皆さんが積極的に事業に参加し、いろいろな活動ができるようにしていただければと思います。

それでは、続きまして報告事項その2「令和8年1月実施20歳のつどいにかかる懸案事項について」に移ります。事務局から報告をお願いします。

【會澤副主査】

それでは別冊資料「令和8年1月実施20歳のつどいにかかる懸案事項について一書面による意見とりまとめ結果」をご覧ください。

本来でしたら前回の会議にて、みなさまからご意見をいただくところでしたが、審議テーマに関する宮城県白石市の事例紹介の時間の関係上、書面という形で急遽、意見を取りまとめさせていただきました。お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

各項目について、改めての説明は時間の都合上行いませんが、ご意見の傾向として少し整理をさせていただきます。

まず、会場につきましては、駐車場や会場収容人数の点から、上総小櫃中学校の体育館が適しているとの声が多かったように思います。一方、上総地域交流センターを会場とする意義として、久留里の街なかを行き交う晴れ着姿の若者たちが、地域ぐるみで門出を祝う機運を盛り上げるのではないかといったご意見や、対象となる20歳の成人者にアンケートを取ってはどうか、といったご意見もありました。

実行委員会につきましては、地域選出にこだわらず、実行委員として関わってくれるメンバーを募っていくというご意見で一致していたように思います。なお、実行委員募集に当たっては、中学卒業時点で5年後に20歳のつどいが予定されていることを伝えておく必要があるのでは、といったご意見がありました。

来賓につきましては、統合案にご賛同いただけるご意見が多数でした。付け加えて、来賓としてご招待する対象者の範囲については、実行委員会と来賓の方々との関係性を改めて見つめ直し、どのような式典にしていきたいのかといった議論の過程のなかで、今少し実行委員会に検討の余地を残してもよいのでは、というご意見もありました。これまでも恩師をどこまで招待するのかといった点で、実行委員会での決定を尊重してきた経緯がありますので、青年教育事業として位置付けている20歳のつどい実行委員会の意味からしても、今回のご意見を十分取り入れていくことが望ましいと考えられます。

最後の事務分担につきましても、提案内容にご賛同いただけるご意見が多数でした。また職員の負担についてもご心配いただきましてありがとうございました。両館で連携をしていきながら、負担の軽減だけでなく、これまでのつどいの蓄積や、人的・物的資源を活かしながら、上総・小櫃地区の20歳成人者の門出を祝う機会となるよう進めてまいります。

このほか、お気づきの点や全般に関してのご意見ですが、20歳となった若者が地域社会の一員として自覚を持つこと、と同時に地域もまた、若者を大人として受け入れていく機会を意識的につくっていくためにも、今一度、20歳のつどいの目的に立ち返ることの必要性があるのではとのご指摘をいただきました。

さらに、地域感情への配慮という点で考えれば、ささやかでも各4地区でお祝いする機会を設けることも一考の余地ありとのご意見もありました。

以上、長くなりましたが、令和8年1月実施20歳のつどいにかかる懸案事項について、みなさまからのご意見をとりまとめた結果を整理させていただきました。

会場につきましては、前回の審議会でもご説明しましたが、今回の結果を担当課の生涯学習文化課に提出し、最終的には教育委員会の判断として決定されますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

そのほかの項目については、今後、両館で事務レベルでの調整をしていくにあたっての拠り所とさせていただきます。

なお、書面ではなかなか書ききれない部分や伝えきれない部分もあろうかと思しますので、このあと、みなさまのさらなるご意見をいただきますようお願いいたします。

【三橋委員長】

ただいま事務局から報告がありましたが、委員のみなさんからご意見などあればお願いします。書面でいただきましたので、意見の変更や20歳のつどいをみたことでの意見等をお願いします。

【丸山委員】

会場については公運審で意見を一つにして出したほうがいいのでしょうか。

【藤平副館長】

みなさまからこういう様々な意見が出ていますという形で出したいと思います。

【丸山委員】

私は上総地域交流センターが良いのではと思いますが、駐車場の確保について目処はあるのでしょうか。

【森本副館長】

駐車場に関しては、20歳のつどいに限らず、利用者に対して文化祭などでも駐車場が少ないとの認識を持っています。他の地域や商工会議所の駐車場を借りるなどで対応していますが、駐車場自体を拡張するのは難しいのが現状です。参加者が何人なのかを把握した上で、不足等について検討していかないとはいけません。

【丸山委員】

確保するのは難しいということでしょうか。

【森本副館長】

今の施設のなかでは難しいです。現状ですと、旧上総公民館跡地の観光交流センターが管理している広場を活用するなど、現状あるなかで対応することになります。

【本橋館長】

少し離れますが農村環境改善センターや久留里カトリック幼稚園の駐車場を借りることになります。総数でも百数台程度となります。

【丸山委員】

新成人自身が車で会場に来るということは考えにくいので、保護者の方が停めたいのではないのでしょうか。中学校の場合、冬は体育館内が寒くなるのではと心配していますが。

【栗原委員】

暖房を使っても暖かくはならないです。

【小島委員】

式典中は暖房を止めることになるので寒くなると思います。

それと、自分の子どもが中学校を卒業したのですが、最後のクラス会など見ますと、もう子どもたち自身は地域ごとの意識はほとんどないと感じました。実行委員も上総小櫃中学校区のなかで選べば良いと思います。

【丸山委員】

それぞれの地域に分けないということは決まっているのでしょうか。

【會澤副主査】

統合した中学校区で開催することは決定しています。

【丸山委員】

地区ごとに何人という選出をしなくて良いということですね。

【小島委員】

子どもたちにはそういう意識はないですね。

【丸山委員】

私も良いと思いますよ。

【荒井委員】

駐車場について、上総地域交流センターを会場にしたときに、少し離れたところに駐車場を設けて20歳を迎える方に歩いてきてもらってはどうかという意見がありますが、それは当日の天気によって左右されますよね。最高に晴れていれば良いアイデアかと思います。大体は自分で運転せず、家族に送ってきてもらおうと思います。運転者が駐車場に停めて、成人者は会場まで歩いてくることになります。街なかを晴れ着姿で歩けば華やかだとは思いますが、駐車場の問題がありますね。場所としては良いと思いますが、そう考えると中学校の方が、便が良いように思います。施設のことを考えると、駐車場の問題だけクリアできれば上総公民館の方が使用しやすいと思います。学校施設を借りるとなると、いろいろな条件が付いてくると思います。晴れ着姿の人が街なかを歩くことはあまりないのではと思いますがいかがでしょう。

【森本副館長】

上総地域交流センターでやる、やらないという判断は現時点ではできないです。

【荒井委員】

話が進んでいくとそういう問題も現実的に出てくると思います。

【三橋委員長】

意見が出揃ったようなので次に行きます。

【藤平副館長】

このあとは10分間の休憩をはさみまして、協議事項その1「令和6年度評価予定の各館モデル事業について」各館で協議を行います。

上総公民館の各館協議は、このままこの大会議室で、小櫃公民館は談話室で協議を行いますので移動してください。協議の時間は30分間を予定しております。

○地区別に分かれて各館のモデル事業について協議

【三橋委員長】

それでは、審議を再開します。

令和6年度評価予定の各館モデル事業について、各館協議をしていただきましたが、その結果について、まず小櫃公民館、続いて上総公民館から報告をお願いします。

【藤平副館長】

小櫃公民館から説明させていただきます。

モデル事業として、まずは資料①「ちょボラの会」です。ゆるやかなつながりをキーワードに、拠点づくりのモデル事業として展開し、委員のみなさまに評価していただきたいと思います。公民館再整備計画のなかでも意見が出されました、「用がなくても来られる公民館づくり」を目指して、公民館が主体的にこうだと進めるのではなく、住民のみなさんが自分事として考える機会を投げかけつつ、公民館のいろいろな空間を「快善」につなげていきたいと考えています。小櫃にはカフェもないので、「コーヒーを楽しむ教室」を開催して、そこから自主的なカフェの出店等につなげていくなど、今後どのように展開していくか、職員にも予想がつかないところもあります。地域のみなさんの意見を取り込みつつ、心地よい空間づくりを目指して、公民館のあり方を住民のみなさんに考えていただけるよう推進したいと考えています。心地よい“快善”をキーワードに進めてまいります。

次に、モデル事業②「介護家族のひろば」です。先ほどの各館協議のなかで、単独の事業というよりも、小櫃地区は高齢化が進んでいますが、そのことが悪いことではなく、高齢でも元気で過ごしていける地域づくりの一環として、高齢者学級とスマイルサロン「いーね！」を有機的に結びつけてはどうかという議論になりました。アクティブシニア向けの高齢者学級「ほほえみ学級」と、若干内容をマイルドにして参加していただくスマイルサロンへとつなげる受け皿づくり、さらに高齢の方を介護する家族同士が共感する場、このように様々な事業をコラボさせながら、地域の高齢化に対して、公民館として点と点をつなぐ事業展開、受け皿づくりをしていき、家族が思い悩まずに発散できるようコラボもしつつ、地域の課題に向き合っていくモデル事業を展開していきたいと考えています。

【森本副館長】

上総公民館では、「みんなイキイキ！食の健康教室」について経緯を説明させていただきました。今年度3回行った公運審での審議と、上総公民館のあり方に関するアンケート結果を踏まえて、モデル事業を検討しました。上総地域の状況として、人口構成や地域特性を踏まえて、アンケート結果で最も関心の高かった「健康」を、「食」に結び付けて、モデル事業案を考えました。全世代の方を対象に、健康、食、調理関係の学習を通して、健康意識の向上、健康寿命の延伸、健康学習・食のテーマにより、

地域住民の交流、世代間交流など、活性が図られること、地域の方が住み慣れた地域で生き生きと暮らしていく永続的な活動につなげられるように考えました。

事業内容案について説明させていただきましたが、経緯として、地域活性のテーマのためイベントなども検討しましたが、第3回運営審議会で白石市の取り組みでイベントだけだとその日だけの一過性のものになってしまうというお話もありましたので、継続的な地域活性という観点で検討しました。

本館、分館で3ヶ所ありますが、現状の職員配置もあるなかで、公民館でできることを考え、地域活性の根っことして「人が元気であること」「健康」にスポットを当て一過性のイベントではなく、永続的・継続的な地域活性を図ればということの説明させていただきました。

上総地区の健康ということであると、理由は不明ですが、特定健診の受診率が低いところや高血圧の人の割合が多いということから、健康をテーマとしました。

委員の意見から、人数について、調理室の関係で10名としているところについて、人数を増やすことの検討も意見としていただきました。モデル事業の対象事業として、親と子、孫と子を想定していましたが、直接つながりがなくても交流できるようにして地域活性を図ってはどうかと意見をいただきました。

また、モデル事業の様子や料理を写真に撮って文化祭で掲載すれば、地域活性、イベントとして盛り上がるのではないかと意見もいただきました。

今回、調理ということですが、つくるだけでなく、見て学ぶという観点でも事業を行なっても良いのではと意見をいただきました。

上総公民館としては以上です。

【三橋委員長】

ただいま、それぞれの公民館から各館協議結果についての報告がありました。委員のみなさまからご意見やご質問はございませんか。

ないようでしたら、令和6年度のモデル事業に反映していただければと思います。

本日の審議は終了します。速やかな進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。